

事業者排出量削減報告書

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都府長岡京市神足落述1番地						
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	京都有機質資源株式会社 代表取締役 安田奉春						
事業者の主たる業種	産業廃棄物処理業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))						
計画期間	平成20年4月～平成23年3月						
基本方針	弊社のシステムにおいては、熱源としてのA重油の使用による二酸化炭素の発生が最も大きな環境の負荷となっております。そこで、A重油の使用量の削減に取り組みます。						
推進体制	現在設置している廃油混焼装置における廃油混合の割合を増加することにより、A重油の使用量を削減する。そのために、廃油(廃植物油)を自社で収集し廃油混合割合の増加をめざす。また、重油以外の熱源も調査検討する。 環境マネジメントシステム名称 適用範囲 取得年月日						
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	20	ボイラー設備	動植物油の混焼割合を増やし原料処理量に対するA重油使用量を0.060k1/tとする。(19年度は0.062k1/t)				
	21	"	原料処理量に対するA重油使用量を0.058k1/tとする。				
	22	"	原料処理量に対するA重油使用量を0.056k1/tとする。				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (19年度) (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22年度) (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度(実績) (22年度) (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)	
	A 事業所等排出区分	4,831.0 t	4,798.0 t	-0.7 %	4,826.3 t	-0.1 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	*1 4,831.0 t	*2 4,798.0 t	-0.7 %	*1 4,826.3 t	-0.1 %	
	実績に対する自己評価						
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)
		二酸化炭素換算	0.220 t/t	0.199 t/t	-9.5 %	0.202 t/t	-8.2 %
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
	実績に対する自己評価						
	目標を達成できませんでした。内訳を検討しますと、処理原料の増加8.7%に対し、A重油由来のCO2は総量で4.2%減少しておりますが、電気由来のCO2が、13.5%増加しております。今後は節電の計画を検討する必要があると思われます。						
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画) 取組量等 (二酸化炭素換算)			報告年度(実績) 取組量等 (二酸化炭素換算)		
	森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t		(整備面積) ha	(吸収量) t	
	府内産の木材の利用	(利用量) m	(削減量) t		(利用量) m	(削減量) t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kwh	(削減量) t		(発電量) kwh	(削減量) t	
		(熱供給量) GJ	(削減量) t		(熱供給量) GJ	(削減量) t	
	グリーン電力の購入	(購入量) kwh	(削減量) t		(購入量) kwh	(削減量) t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量) t	(削減量) t		(購入量) t	(削減量) t	
	削減量等合計		*3 t		*3 t		
差引排出量		基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)	
(排出合計-削減等合計)		*1 4,831.0 t	(*2)(*3) 4,798.0 t	-0.7 %	(*4)(*5) 4,826.3 t	-0.1 %	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動							
特記事項	基準年度原単位 : 4,831 t (二酸化炭素換算) / 21,956 t (原料処理量) ≒ 0.220 t / t 報告年度原単位 : 4,826.3 t / 23,862 t ≒ 0.202 t / t						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○◎工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(生産数量、延べ床面積、走行距離等)を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度(計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度(実績)」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。